

琵琶湖沿岸、西の湖および伊庭内湖におけるホンモロコの産卵状況

大植伸之・藤岡康弘

1. 目的

ホンモロコの産卵状況と産卵期間中の水位変動の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2地点)と周辺内湖(2地点)において産卵調査を例年行っており、平成31年度についても同様に調査を行った。

2. 方法

琵琶湖沿岸(大津市小野、長浜市湖北町延勝寺)と周辺内湖(西の湖、伊庭内湖)の計4カ所において、湖岸距離約50~100mのヨシ・ヤナギ帯で、3月中旬から7月上旬まで原則1回/週の頻度でホンモロコの産卵状況を調査した。孵化までの期間常に水中にあった卵を生存卵、孵化までの期間常に干出していた卵を死亡卵、孵化までの期間干出した期間が含まれる卵を不明卵と評価した。琵琶湖水位の変動は、琵琶湖河川事務所の琵琶湖水位データを用いた。

3. 結果

産着卵は、3月下旬から6月下旬まで確認された(図1~4)。

産卵期間を通じた各調査地点の産着卵数は、小野が約35万粒、延勝寺が約83万粒、西の湖が約93万粒、伊庭内湖が約62万粒であった。

調査日における産卵のピークは小野では5月7日、延勝寺では6月18日、西の湖では5月20日および6月11日、伊庭内湖では5月20日にみられた。

産卵期間中の琵琶湖水位は、5月7日をピークに低下し5月20日から1週間上昇したものの6月中旬まで概ね下がり続けた。延勝寺や西の湖では水位低下時期と産卵のピークが重なり、多くの産着卵が不明卵、死亡卵と評価された。

水面付近に産卵を行うホンモロコの特性上、産着卵は水位の変動による干出の影響を受けやすいため、産卵時期の大きな水位の低下がホンモロコの再生産を抑制している可能性が高い。

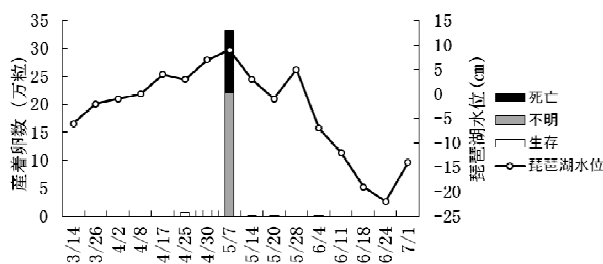


図1 小野における産着卵数の推移

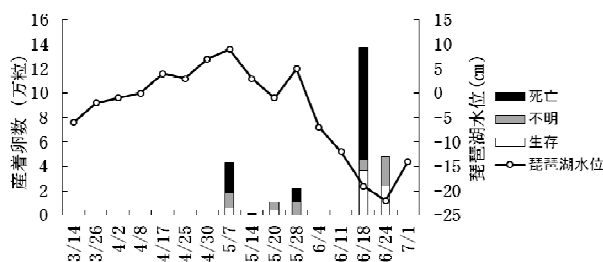


図2 延勝寺における産着卵数の推移

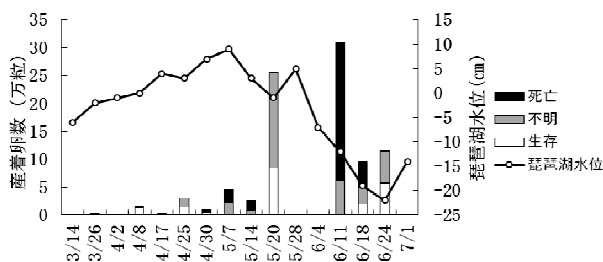


図3 西の湖における産着卵数の推移

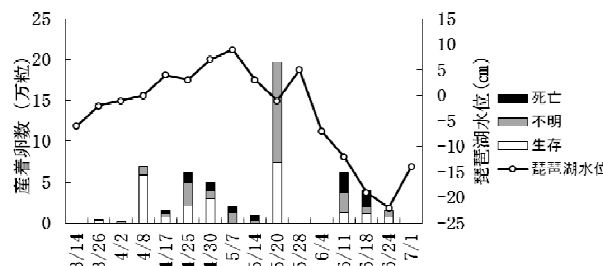


図4 伊庭内湖における産着卵数の推移